



環境活動報告書(2018年度)

(2019年10月発行)



株式会社 渡商会
WATARI Co.,Ltd.

目次

1.	会社概要	1
	(1) 株式会社渡商会	
	(2) 第一マルワ石油株式会社	
	(3) アロープラント株式会社	
	(4) WATARI VIETNAM Co.,Ltd.	
	(5) WATARI MANUFACTURING GAS SERVICE Co.,Ltd.	2
	(6) 売上高	3
	(7) ISO14001活動の取り組み	
	(8) 報告書に関する情報	
2.	経営者からのメッセージ	4
3.	環境方針	5
	(1) 地球環境環境保全対策方針	
	(2) マネジメント体制	
4.	企業ビジョンの取組み	6
5.	環境に関する取り組みの状況	9
	(1) 環境活動：目標	
	(2) 環境活動：結果	10
	(3) 個別の環境活動について	
	① 環境商品の取組み	
	② 地球環境への負荷の低減	11
	i) フロン回収	
	ii) 車両の排気ガスのクリーン化	
	③ 省エネルギー・省資源の推進	
	i) 電気使用量の削減	
	ii) 自動車燃料使用量の削減	12
	iii) コピー紙使用量の削減	13
	④ 地域社会との共生	
	⑤ グリーン購入・調達の推進	14
	⑥ 法令順守の状況	15
	⑦ 廃棄物の削減及び資源リサイクルの推進	
	i) 産業廃棄物排出量の推移	
	ii) 金属リサイクルの取り組み	
	iii) 紙類リサイクルの取り組み	
	iv) 再使用の取り組み	16
	⑧ 物流関連のエネルギー使用の状況	
	⑨ 教育関連	
	⑩ 2018年度CO ₂ 排出量	
6.	投資	
7.	重要な環境課題の特定	17

1. 会社概要（2019年10月現在）

（1）株式会社渡商会

商 号：株式会社渡商会
本 社 所 在 地：神奈川県横浜市子安通2丁目234番地
創 立：1925（大正14）年
設 立：1947（昭和22）年11月
代表取締役社長CEO：河西健二
資 本 金：2,000万円
従 業 員 数：139名（2019年4月30日現在）
第一マルワ石油株式会社出向者除く
事 業 内 容：各種高圧ガス、石油類の販売、高圧ガス関連設備の設計施工管理
医療関連設備機器の販売、保守管理
営 業 所：栃木営業所 栃木県河内郡上三川町大字石田字北浦1240
上武営業所 群馬県太田市新田上江田町450-1
多摩営業所 東京都八王子市石川町2552
厚木営業所 神奈川県厚木市長谷260-31
三重営業所 三重県津市雲出伊倉津町1268-3
津事業所 三重県津市雲出鋼管町1
福岡営業所 福岡県京都郡荻田町新浜町1-32
荻田事業所 福岡県京都郡荻田町新浜町1-3
茨城出張所 茨城県下妻市本城町2-77

（2）第一マルワ石油株式会社

商 号：第一マルワ石油株式会社
本 社 所 在 地：神奈川県横浜市子安通2丁目234番地
設 立：1974（昭和49）年7月
代表取締役：渡茂樹
資 本 金：1,000万円
従 業 員 数：5名（2019年4月30日現在：株式会社渡商会より出向）
事 業 内 容：石油製品類の販売
営 業 所：京葉営業所 千葉県市川市大町70-2

（3）アロープラント株式会社

商 号：アロープラント株式会社
本 社 所 在 地：神奈川県藤沢市遠藤3210
設 立：1981（昭和56）年5月
代表取締役：細谷悟
資 本 金：1,000万円
従 業 員 数：26名（2019年7月現在）
事 業 内 容：石油、高圧ガスほか各種プラント設計・工事、空調・給排水厨房工事、プラント・設備の
検査、保守、修理

（4）WATARI VIETNAM Co.,Ltd.

商 号：WATARI VIETNAM Co.,Ltd.
本 社 所 在 地：200/22-24 Co Giang Street, Co Giang Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam
設 立：2012年11月
代表取締役社長：土井亮就
資 本 金：500,000 USD
事 業 内 容：高圧ガス、ガス設備・機器、ガス配管の設計・施工・管理、ガス漏れ警報装置、溶接材料

(5) WATARI MANUFACTURING GAS SERVICE Co.,LTD.

商 号：WATARI MANUFACTURING GAS SERVICE Co.,LTD.

本 社 所 在 地：888/205 Moo 19 Bangpleeyai, Bangplee, Samutprakarn 10540 Thailand.

設 立：2015年4月

代表取締役社長：岡林 実

資 本 金：9,900,000 Baht

事 業 内 容：①空温式ペーパライザーの製造

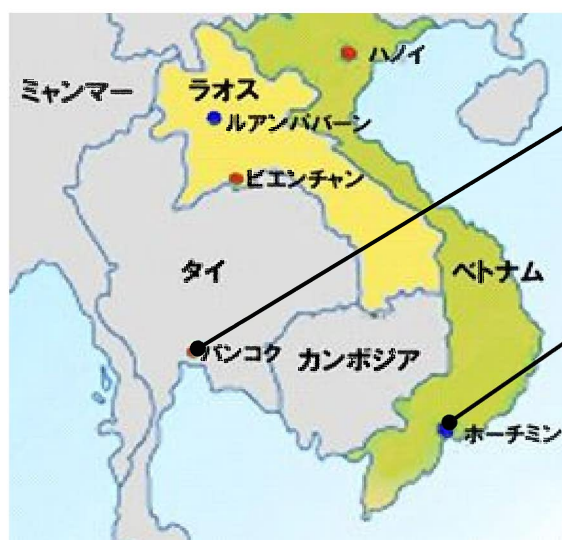
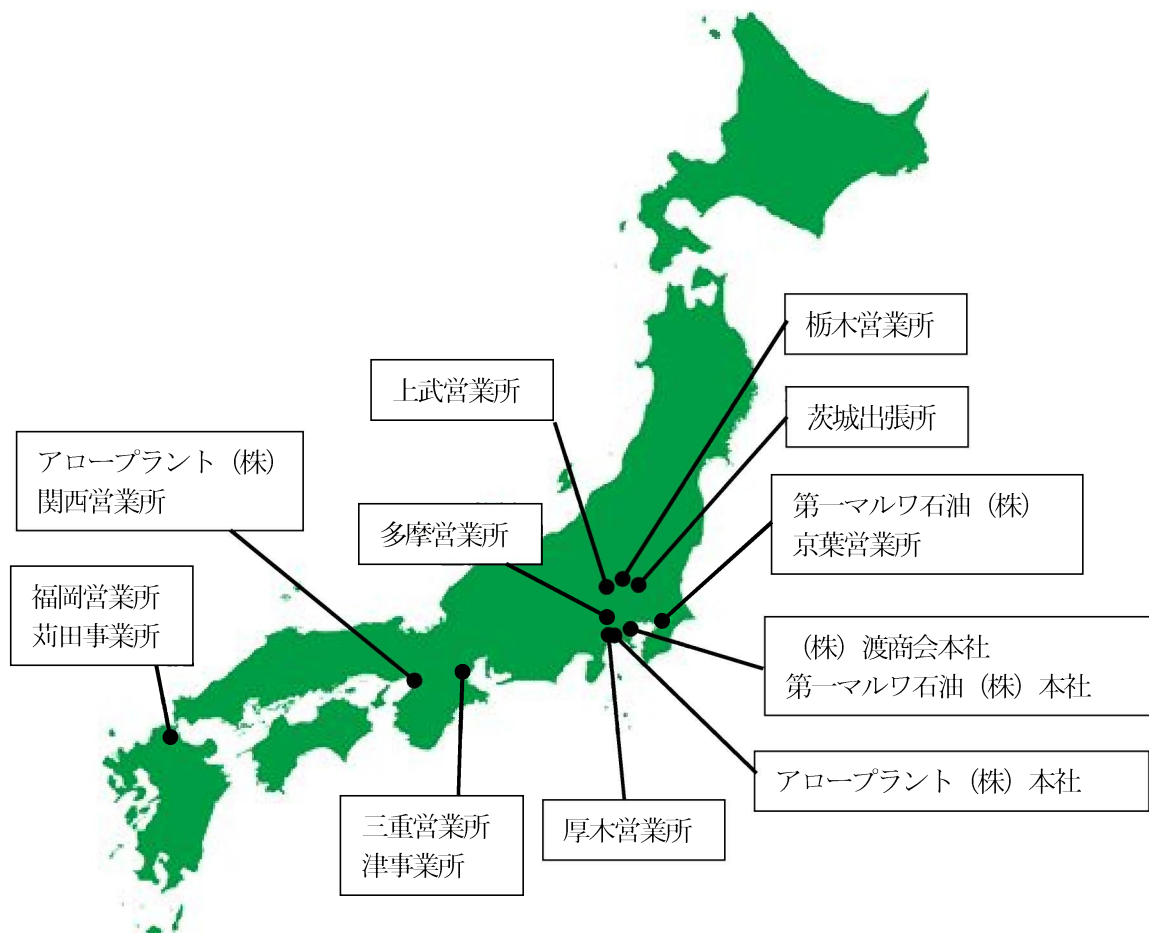
②一般工業ガス・特殊ガス・ガスタンク・ガス機器の販売

③溶断溶接用機器・器材の販売

④ガス供給設備・制御盤・消費設備・配管・配線の設計施工製作

⑤水浄化システムの販売

及び上記製品のスペアパーツと付属品の販売。

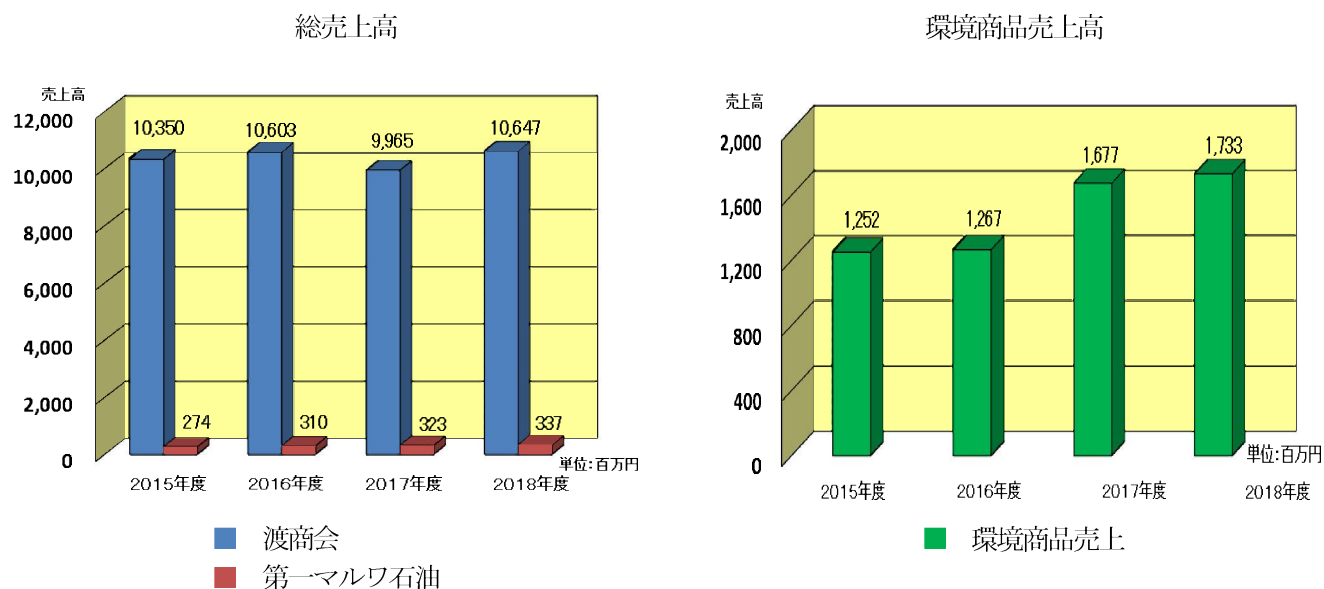


WATARI MANUFACTURING GAS SERVICE Co.,Ltd.

WATARI VIETNAM Co.,Ltd.

(6) 売上高

株式会社渡商会及び第一マルワ石油株式会社の売上高の推移は以下のとおりです。



(7) ISO14001活動の取組み

ISO14001 認証取得年月

2001年7月19日

ISO14001 認証更新年月

2016年7月19日

2015年規格への移行

2017年8月 4日

認証範囲 (サイト)

株式会社渡商会本社、栃木営業所、上武営業所、多摩営業所
厚木営業所、三重営業所、福岡営業所、茨城出張所
第一マルワ石油株式会社本社

特定される活動

①高圧ガス及び関連機器の販売
②高圧ガスの供給設及びその関連・付帯設備の製造、据付
及び付帯工事並びにその他の付帯サービス

登録番号

01ER・143

審査登録機関

高圧ガス保安協会 ISO審査センター

(8) 報告書に関する情報

編集方針 本報告書は、ISO14001の認証取得の対象である、株式会社渡商会、及び第一マルワ石油株式会社本社の環境保全活動に関して記載しています。

対象期間 2016年度から2018年度までの環境活動

企業情報は発行日現在 (項目により違いがある場合は、個別に記載した)

2. 経営者からのメッセージ

当社は、2016年に企業ビジョンを策定し、「私達は常に新しい分野に挑戦し、商社機能とメーカー機能を併せ持つ国内外のリーディングカンパニーを目指す」事として、同年より様々な課題に取り組んでいます。

これは、挑戦を止めたとき人は成長が止まり、当社の財産である人の成長が止まったときには、当社の成長も止まると考えるからです。

企業ビジョン 挑戦そして成長



意識改革

人が更なる成長を目指すときには、意識改革がトリガーになります。それは、今までの考え方の延長線上にあるのではなく、そこから分岐した、或いはもともと違う軸に基く考え方を持つ必要があります。それを意識改革という言葉で表し、広く社内への浸透を図っています。

新規活動へのアプローチや、お客様への改善提案など、当社からの積極的な営業活動がこれからの成長を担うものと考えます。

新規事業

当社は、電力・ガスの自由化を機に、電力小売事業へも参入しました。

また、水素エネルギー社会に向けた、水素ステーション

関連事業も確実に実績を重ねつつあります。水素関連事業では、これらの実績から今後は、水素ステーションの運用、検査・保守を加えた Solution としての展開を進めてまいります。

昨年ご紹介した海外子会社生産による、高効率ベーパーライザーは着実に実績を重ね、更にお客様のニーズを取り込み自動切換え方式にするなど、バリエーションを増やす開発を行っています。

積極的投資

当社の基盤である国内市場では、成長のためM&Aや異業種との業務提携へも投資してまいります。

意識改革による提案営業では、様々にカスタマイズできる自社開発の高圧ガス設備の監視システムや、お客様構内への当社設備の設置などの積極的投資により、お客様のニーズを創造するような提案を行い、商社の枠から一歩踏み出す営業活動へ力を入れています。

本報告書をご覧の皆様には、当社の活動に一層のご理解をいただきますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月23日

株式会社 渡商会
代表取締役社長 CEO 河西 健二

3. 環境方針

(1) 地球環境保全対策方針

基本理念

当社は、高圧ガスの販売を始めとする全ての企業活動を通じて、社会から信頼され、安心される企業を目指します。

地球環境保全対策方針

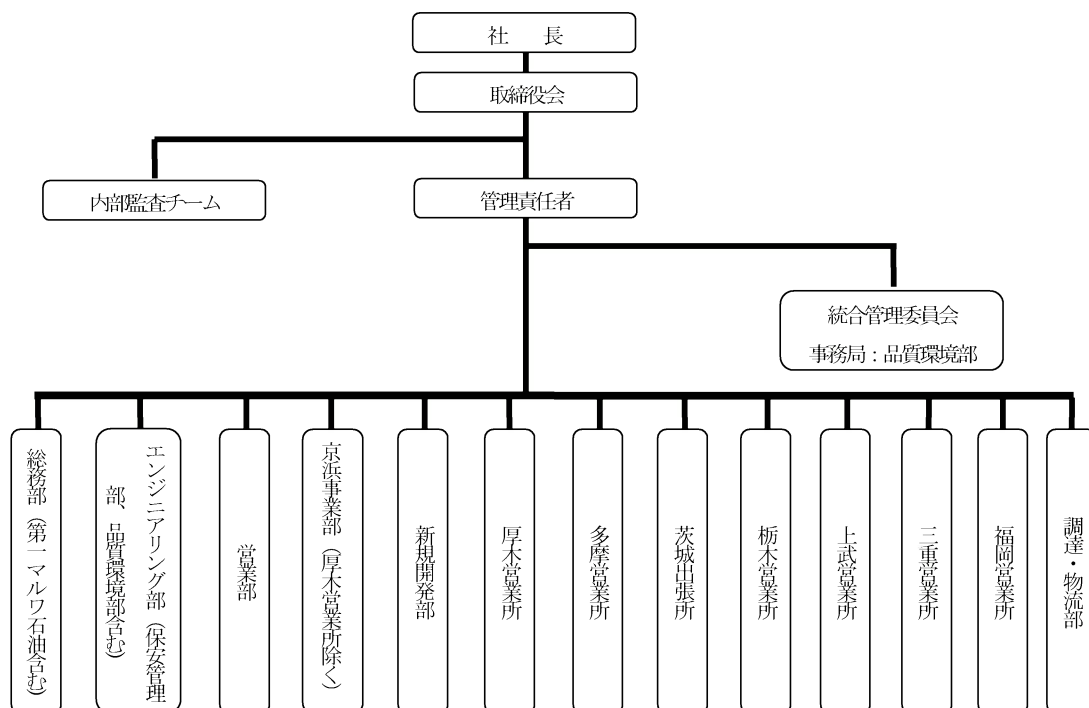
当社は、企業活動の中で、地球環境保護の活動を推進し、全生物が豊かに共生しうる地球環境の維持を目指します。これを実践するために、以下の五つの方針を定め行動します。

1. 当社は、環境に関する適用可能な法的規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、汚染の未然防止に努めます。
2. 当社は、企業活動のさまざまな局面において、地球環境への負荷の低減を図るため、次の事項を積極的に推進します。
 - (1) 省エネルギー、省資源
 - (2) 資源のリユース、リサイクル、廃棄物の削減
 - (3) 環境に配慮した商品の開発、販売、購入
 - (4) 未来エネルギー関連事業の強化
 - (5) フロンの回収、廃棄活動への関与
 - (6) 地球にやさしい流通の実現
3. 当社は、環境目標を設定し、環境管理活動を推進するとともに、見直しの枠組みを設け、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 本方針は、文書化するとともに、全従業員及び当社のために働くすべての人に周知します。また、環境保全意識向上のための教育、啓蒙活動を実施します。
5. 本方針は、一般に開示します。

2017年5月1日

株式会社 渡商会
代表取締役社長 CEO 河西健二

(2) マネジメント体制



4. 企業ビジョンの取り組み

挑戦そして成長

当社は、挑戦そして成長という企業ビジョンの達成のために、「常に新しい分野に挑戦し、商社機能とメーカー機能を併せ持つ」国内外のリーディングカンパニーを目指しています。

★常に新しい分野への挑戦

水素ステーション

新エネルギー事業推進室を中心に、水素関連設備やLNG／CNG等のプラント設備など、地球環境に関連する未来エネルギー関連事業について取り組んでいます。



中でも、水素ステーションの設置工事は着実に実績を積み重ねています。又、運用開始後はその定期メンテナンスも請け負っております。超高圧設備の点検には技術力を持った子会社のプラント検査会社が施工に当たります。

新エネルギー事業推進室



当社は、お客様に設備の設計・施工からメンテナンス更には運用・緊急時対応まで、技術力を備えたトータルソリューションの提案を行っています。

次世代エアコンガス充填装置、キャニスターローディングパージ装置、集中監視システム

当社は設立当初から、主要得意先である自動車メーカーとは製造部門から研究部門まで、高圧ガスを始め、冷媒充填装置やガス漏れ警報器、各種監視装置まで、その時々々の要望に応える形で様々な設備を提供してまいりました。

今、自動車産業のみならず、環境問題は全ての事業者が避けて通れない課題です。自動車関連では排気ガスや燃料に関する規制は歩みを止めることはありません。

直近ではオゾン層保護法の改正（2019年1月施行）などもあって、代替フロンガス（HFC）の更なる代替品への移行が迫り、燃料関連のキャニスターでも2019年にPhase3からPhase4へその規制が移行します。

キャニスターローディングパージ装置

自動車には、燃料のガソリンの蒸発分を吸着するキャニスターという部品があります。キャニスターに吸着された蒸発ガスは、大気中に放出させずに走行時にエンジン内に送り込まれ燃焼させられます。

このときの排出ガスに関する規制が2019年からPhase4として一段厳しくなります。当社ではこの規制強化に合わせたキャニスターローディングパージ装置も提供いたします。



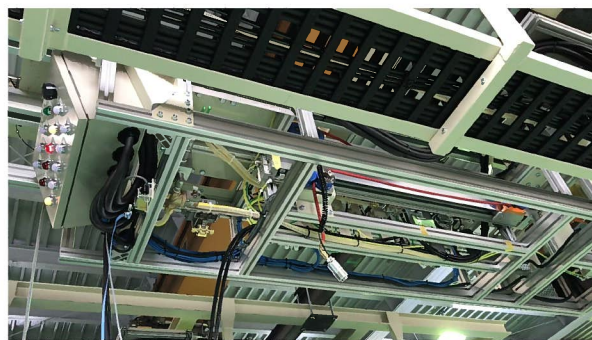
（ CANISTER TESTER ）

次世代エアコンガス充填装置

自動車のエアコンガスは、現時点での主流ガスである、R-134aからよりオゾン破壊係数、地球温暖化係数の少ないガスへの変換が計画されています。次世代冷媒として今後は、HFO1234yfが、日本を含め世界のスタンダードになるものと考えられています。



新冷媒充填装置（リペア用）



次世代エアコンガス充填装置コンソール

当社は日本で初めて、自動車会社の製造ラインに、この次世代冷媒の充填装置を設置しました。

2018年5月現在、合計8つの製造ラインに設置されています。

集中監視システム

様々なガス関連設備に関してお客様の要望に応じてきた当社は、エンジニアリング部門に各種流体の制御技術が蓄積されています。

これらの技術から、「集中監視システム」を開発しました。

これは、既設設備の制御盤と連動し、警報発報、データ収集、遠隔操作など情報の一元管理及び情報の共有化が図れるものです。

WEBサーバー、メール作成機能付PLCを採用し、独立した通信を構築しました。

パッケージソフトを自社製作し、コストを低減しています。



集中監視システムの狙いは大きく3点挙げられます。

1. 情報の一元管理と共有化
社内LAN経由で社内PCでの情報管理
2. 遠隔での状態監視及び操作
社内PC、スマートフォン（タブレット含む）での警報受信、復旧操作
3. 人的負担の軽減
情報の共有化による人的省力化、無人化

管理する対象は、温度、圧力、流量、濃度、重量、火災、地震など様々な要素が可能です。お客様の要望に、最適なソリューションでお応えします。

★商社機能とメーカー機能を併せ持つ国内外の・・・

経営者のコミットメントに積極的投資と掲げてあるとおり、お客様のニーズに合わせ、お客様の敷地内への当社設備の設置などの取引形態など、従来とは違う形での提案を進めています。市場、経済状況など様々な要因が変化中、お客様の事業内容を見極め、時には当社が設備を設置するなどの投資案件にも力を入れています。

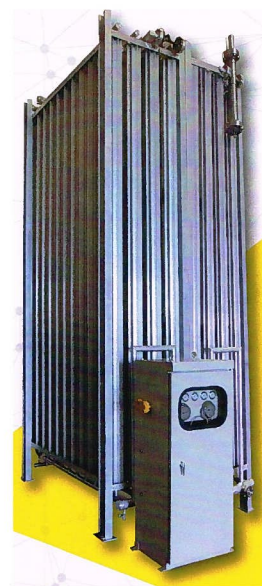
タイの子会社の、Watari Manufacturing Gas Service Co., Ltdで製造し

た各種の空冷式ペーパーライザーは、東南アジアでの販売は勿論、LPGガス用以外のペーパーライザーは国内で販売をしています。

独自開発のアルミフィンチューブにより、コンパクトサイズながら高効率です。

長時間の連続使用を狙いとして、自動切換え供給装置も用意しました。

SG025（気化能力25m³/hr）を2台連結し、片側の容器圧力が低下したら自動で予備側の容器からガスを供給します。



昨年ご紹介した高圧ガス保安法の特定高圧ガス設備に該当しない空温式ペーパーライザー（SG025（液化酸素、液化窒素、液化アルゴン用））、並びにアルミフィン上部に設置した付属ファンの動力として100V電源だけを使用する液化炭酸ガス用（CD040）のいずれも、数多くお問合せをいただき、既に何件も採用していただいております。

尚、液化炭酸ガス用の空温式ペーパーライザーの、高圧ガス保安法の製造施設の該当につきましては、都道府県により見解が異なりますので、導入を検討される場合は、弊社までお問合せください。



★環境商品

当社は企業ビジョンの元、高圧ガスをはじめとする各種商品の販売と関連する設備の設計施工という本来業務の中で、環境への配慮した商品の提案・販売に取り組んでいます。

本環境報告書で数年前よりご紹介しているとおり、当社の取扱商品のうち、省資源・省エネルギーに資するもの、商品そのものが長寿命の物、お客様の環境の取組みに関連する各種設備などを「環境商品」として特定し、積極的にお客様に提案しています。

特定した商品の一例などは、後掲の環境商品の項目でご確認ください。

★トータルソリューション

事業開始時には圧縮ガス容器1本であったガスの使用量が、業務の拡大とともに使用量も増加し、複数容器を同時に使用する集合装置、また圧縮ガスに比較してガス量の多い超低温容器での液化ガスの供給へ、更にはCE（コールドエバポレーター）設置によるタンクローリーでの供給と、お客様のニーズに合わせた供給形態を提案いたします。

お客様の使用状況に合わせた監視測定設備も、ご提案しています。（1）項でご紹介したように、様々な情報を纏めた集中監視システムもご用意しています。

そこには使用状況に最適な供給設備の設計施工から、定期メンテナンスや警報装置などの保安面での対応、更にはお客様の構内での各種保安教育の実施など、もちろん高圧ガス保安法をはじめとする様々な法律への対応を含め、お客様に安心・安全をお届けするトータルソリューションの考え方による営業活動があります。

私たちは企業ビジョンの達成により地球環境に貢献できるものと考えています。

5. 環境に関する取組みの状況

（1）環境活動：目標

環境方針、著しい環境側面、法規制等の要求事項から2018年度の環境目標を下記のとおり設定しました。

2016年度 目標	2017年度 目標	2018年度 目標
フロン回収作業の推進	フロン回収作業の推進	フロン回収・廃棄活動の推進
電気使用量 2015年度対比 1%削減	電気使用量 2016年度実績の維持	電気使用量 2017年度実績の維持
空調設備の更新 1台	空調設備の更新 1台	空調設備の更新 1台
自動車燃料使用量 2015年度対比 1%減	自動車燃料使用量 2016年度実績の維持	自動車燃料使用量 2017年度実績の維持
燃費向上 2015年度比 2%向上	自動車燃費 2016年度実績の維持	燃費向上 2017年度実績の維持
コピー紙使用量 2015年度比 1%削減	コピー紙使用量 2016年度実績の維持	コピー紙使用量を 2017年度実績の維持
産業廃棄物排出量の監視	産業廃棄物排出量の監視	産業廃棄物排出量の監視
再使用の推進 再使用件数 136件	再使用の推進 2016年度実績の維持	再使用の推進 2017年度実績の維持
環境商品販売実績 2015年度実績の 5%アップ（エンジニアリング）	環境商品販売実績 2016年度実績の 5%アップ（エンジニアリング）	環境商品販売実績 2017年度実績の 5%アップ（エンジニアリング）
環境商品販売実績の監視（営業）	環境商品販売実績の監視（営業）	環境商品販売実績の監視（営業）
環境商品の提案 720ポイント	環境商品の提案 2016年度実績の 5%アップ	環境商品の提案 2017年度実績の 5%アップ
新エネルギー関連事業への取組み	新エネルギー関連事業工事、メンテナンス受注1件	新エネルギー関連事業工事、メンテナンス受注2件
グリーン購入率 95% （本社、厚木、多摩）	グリーン購入率 95% （本社、厚木、多摩）	グリーン購入率 95% （本社、厚木、多摩）
グリーン購入率 70% （栃木、上武、三重、福岡）	グリーン購入率 80% （栃木、上武、三重、福岡）	グリーン購入率 90% （栃木、上武、三重、福岡）
グリーン購入率 60%（茨城）	グリーン購入率 70%（茨城）	グリーン購入率 80%（茨城）
事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）	事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）	事務用品以外のグリーン購入の推進（監視）
グリーン調達への推進	グリーン調達の推進	グリーン調達の推進

2016 年度 目標	2017 年度 目標	2018 年度 目標
SDS の配布 100%維持	SDS の配布 100%維持	SDS の配布 100%維持
会社周辺の清掃 年4回	会社周辺の清掃 年4回	会社周辺の清掃 年4回
外部講習への出席 9人	外部講習への出席 9人	外部講習への出席 9人
環境パトロールの実施 年6回	環境パトロールの実施 年6回	環境パトロールの実施 年6回
環境情報の提供 年2回	環境情報の提供 年2回	環境情報の提供 年2回
物流関係燃料使用量について削減方法の検討	物流関係燃料使用量について削減方法の検討	物流関係燃料使用量について現状把握の継続
		CO2排出量を集計する

(2) 環境活動：結果

2018年度の各項目の達成状況は以下のとおりです。

判定 ○：達成 ×：未達成

No.	目的	目標	判定
1	フロンの回収・廃棄活動の推進	フロン回収・廃棄活動の推進	○
2	電気使用量削減	電気使用量 2017年度実績の維持	×
		空調設備の更新 1台	×
3	自動車燃料使用量の削減	自動車燃料使用量 2017年度実績の維持	×
		燃費向上 2017年度実績の維持	×
4	コピー紙使用量の削減	コピー紙使用量を 2017年度実績の維持	×
5	廃棄物の削減	産業廃棄物排出量の監視	×
		2017年度実績の維持	×
6	環境商品の提案	環境商品の提案 2017年度実績の5%アップ	×
		環境商品販売実績 2017年度実績の5%アップ	○
		環境商品販売実績の監視	×
		新エネルギー関連事業 工事、メンテナンス受注2件	○
7	グリーン購入の推進	グリーン購入実施 購入率95% (本社、厚木、多摩)	○
		グリーン購入実施 購入率90% (栃木、上武、三重、福岡)	×
		グリーン購入実施 購入率80% (茨城)	○
		グリーン調達の実施	○
		事務用品以外のグリーン購入の推進 (監視)	○
8	SDSの配布	SDSの配布 100%維持	○
9	会社周辺の従業員による一斉清掃	会社周辺の清掃 年4回	○
10	従業員環境教育	外部講習への出席 9人	○
11	環境パトロールの実施	環境パトロールの実施 年 6回	○
12	下請業者へ環境情報提供	下請業者の環境情報提供 年 2回	○
13	エネルギー使用の合理化	物流関係燃料使用量について現状把握の継続	○
14	CO2排出量の少ない流通の実現	CO2排出量を集計する	○

(3) 個別の環境活動について

①環境商品の取り組み

当社の主力商品である高圧ガスは、数え切れないほどの種類があります。それらは、様々な分野で使用されています。

工業製品の製造過程で使用するのは勿論、農業、漁業、運輸、小売などその分野は多岐にわたります。

高圧ガスは、大きく可燃性、毒性、不燃性の性質を有しますが、これらの性質を、より目的に合わせるために、混合したり、新たな高圧ガスを開発したりしています。

◎冷媒ガス

オゾン層保護や温暖化対策といった地球環境の保護・保全への取り組みが進む中、オゾン層破壊係数や温暖化係数という指標により、新たな冷媒ガスに関する研究開発が続けられています。

冷媒に要求される性質は、次の項目があります。

- ・毒性、燃焼性が低く、安全性に優れること
- ・地球環境や周囲の環境を破壊しないこと
- ・化学的に安定であること
- ・適度な沸点をもつこと

これらの項目を満たしている冷媒に、「新冷媒（HFO-1234yf）」があります。当社はその充填装置はもちろん、ガスも取り扱っています。

また、フロン回収装置販売や、フロン回収・破壊作業といった、フロンを大気へ放出することを防ぐ社会的な取り組みも、行っています。

◎溶接・切断用ガス

金属の溶接・切断には、高圧ガスが使用されます。

金属を熱して接続する、或いは加熱した金属に酸化させるガスを噴出することで切断するという原理に変わりはありませんが、長い歴史の中でその加工品質の向上や、作業効率改善のためにいろいろな高圧ガスが研究されています。

溶接速度や切断面の品質など、目的に合致したガスを使用することで驚くほど作業効率が改善されます。

近年では、安全性、作業環境、地球温暖化対策等を考慮した溶接・切断用ガスが開発されています。

当社はお客様の業務内容を熟知した営業担当者が、最適なガスを提案します。



◎食品

食品の酸化による鮮度劣化防止のために、窒素ガスが使用されますが、更に、炭酸ガスや酸素ガスを用途により混合することで、保存期間の延長が可能になります。

2016年度に国内で出た食品の廃棄ロスの推計値は約640万トンに上り、環境面からも問題視する動きが強まっています。

食品の廃棄ロス削減に向け、様々な取り組みが行われています。農林水産省などは賞味期限が迫った食品は小売店に納入しないという習慣を緩和するよう食品業界に要請しています。また、食品の販売を賞味・消費期限ギリギリまで延長する社会実験を実施した市町村もあります。流通業界や食品メーカーでも、賞味期限の「年月日」の表示から「日」を省くことで、品質に問題がないのに売れ残って廃棄処分される商品を減らそうとする動きが広がりつつあります。



これらは、当社の扱っている高圧ガスの一例です。当社は、お客様の業務内容をしっかり理解し、お客様に最適な商品を提案してまいります。

②地球環境への負荷の低減

i) フロン回収

得意先の冷蔵設備やエアコンの冷媒に使用されている特定フロン（CFC）や代替フロン（HCFC）の回収作業を積極的に案内することにより、オゾン層破壊の防止に努めています。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
回収実績（回数）	10 回	28 回	4 回
破壊実績（回数）	279 回	261 回	184 回
回収量等の実績（Kg）			
CFC	277.03	7.26	179.92
HCFC	2,278.955	2,546.16	1,729.8
HFC	1,753.3	2,016.7275	1,035.19
HFO	16.3	37.3	21.8

当社は、神奈川県、東京都、埼玉県でフロン回収業の登録をしています。

ii) 車両の排気ガスのクリーン化

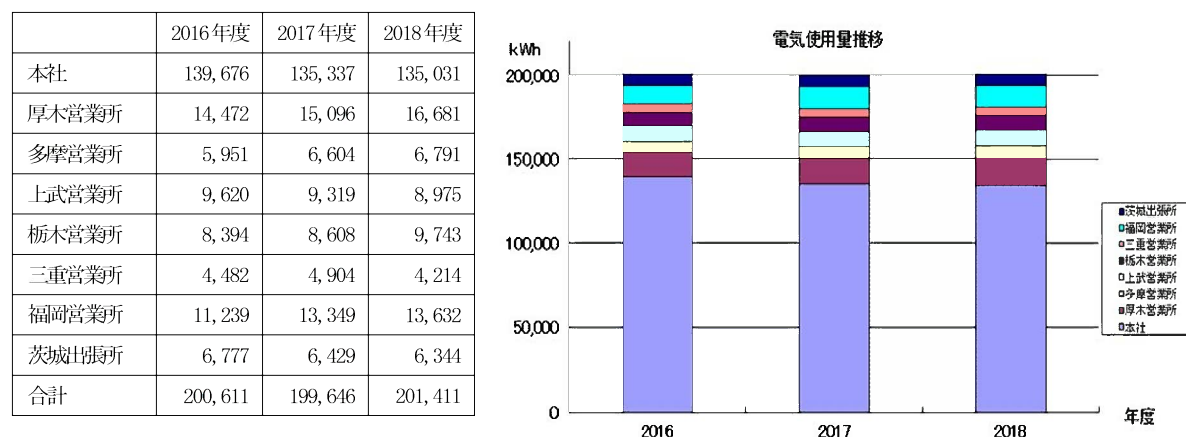
当社の使用する車両は全て排出ガス規制の適合車となっています。

「かわさきエコドライブ宣言」に登録し、川崎市で毎年2回行われるエコドライブ講習会に参加しています。

③省エネルギー・省資源の推進

i) 電気使用量の削減

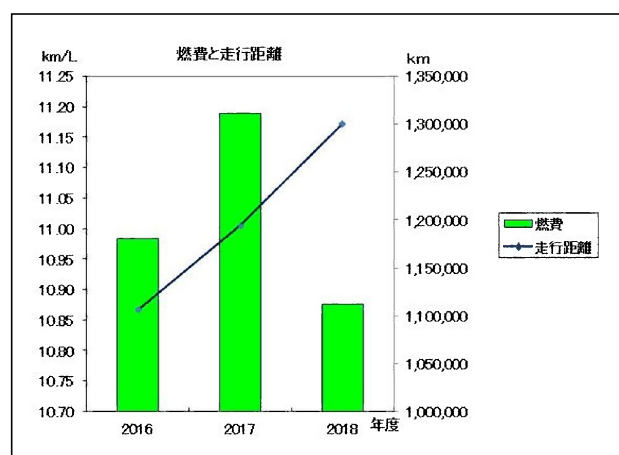
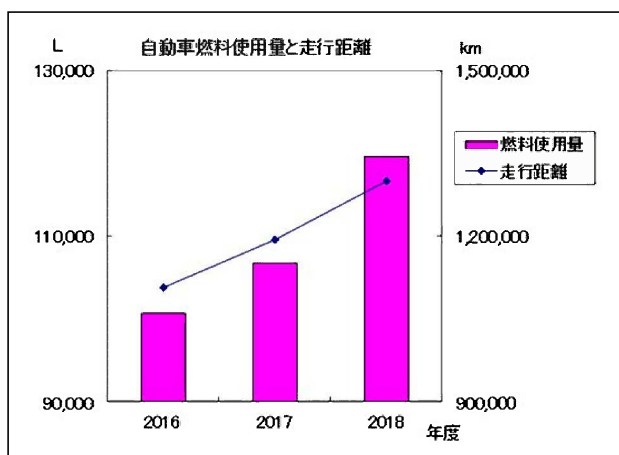
節電施策で大きな変更はありません。空調の設定温度や不要な照明の消灯などの施策は、誰もが率先して実施しています。使用量の変動の要因として、天候が挙げられます。



ii) 自動車燃料使用量の削減

自動車燃料使用量、走行距離、燃費の推移は以下のとおりです。

	2016 年度			2017 年度			2018 年度		
	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	燃料 (L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)
本社	48,276	472,935	9.80	52,884	555,060	10.50	59,742	621,655	10.41
厚木営業所	8,222	90,498	11.01	7,164	74,467	10.39	7,200	83,176	11.55
多摩営業所	6,783	99,457	14.66	8,481	126,762	14.95	7,284	111,702	15.34
上武営業所	9,548	102,284	10.71	10,117	108,553	10.73	10,550	120,253	11.40
栃木営業所	8,298	92,522	11.15	8,948	98,287	10.98	13,427	128,245	9.55
三重営業所	6,629	80,868	12.20	6,119	75,035	12.26	6,119	61,960	10.13
福岡営業所	9,084	106,975	11.78	9,454	95,790	10.13	12,022	118,168	9.83
茨城出張所	3,863	60,524	15.67	3,565	60,339	16.93	3,250	55,501	17.08
合計	100,703	1,106,063	10.98	106,732	1,194,293	11.19	119,593	1,300,660	10.88



※参考 当社の保有車両は右のとおりです

自動車燃料に関する取り組みは、従来総使用量を指標としてその削減に取り組んでまいりました。

車両そのものが低燃費車へ入替えとなったり、その他様々な要因で使用量は削減されてまいりましたが、当社の車両は、営業活動で使用するため、業務との兼ね合いで使用量をむやみに減らすことには困難を生じており、近年は、燃料使用量に燃費も目標に加えて2本立てで取り組んでいます。

単位：台

年度 部署	2016	2017	2018
本社	34	35	37
厚木営業所	5	6	6
多摩営業所	5	5	5
上武営業所	6	6	6
栃木営業所	5	5	8
三重営業所	5	5	5
福岡営業所	8	7	7
茨城出張所	3	3	3
合計	71	72	77

iii) コピー紙使用量の削減

単位：枚（A4換算）

コピー紙使用量の推移は右図のとおりです。紙そのものを使用しないという考えに基き、社内システムの電子化（各種申請のデータベース利用）を進めています。

コピー紙ではありませんが、コンピュータのストックフォームや、売上記録用に使用する専用の用紙を廃止して、紙の使用量の削減に努めています。

但し、専用の用紙を廃止しましたが、一部ではコピー紙による印刷へ移行している場合があり、その分がコピー紙使用量の増加の要因となっています。

※施策の例：両面・縮小印刷、FAXの受信の電子化、スキャナー利用による部署間の資料の送受信の電子化

	2016年度	2017年度	2018年度
本社	116,506	127,661	131,208
厚木営業所	45,728	47,849	49,716
多摩営業所	16,616	19,304	17,053
上武営業所	19,620	18,540	18,930
栃木営業所	14,200	16,290	17,040
三重営業所	5,340	8,040	6,840
福岡営業所	23,100	23,100	23,400
茨城出張所	6,000	4,200	5,100
合計	247,110	255,322	269,287

④地域社会との共生

当社では、事務所周辺の清掃活動を実施しています。各年度4回実施を計画し、2018年度も4回実施しました。

※清掃実施区域

- 本社 国道15号線を東京方面に向かい、新子安駅脇の陸橋を利用して戻る両側の歩道
- 厚木営業所 営業所入り口を中心に、右側は隣のガソリンスタンドまで、左側は回り込んだ土手のグリーンベルトまで

- iii) 多摩営業所 営業所正面道路の左右及び都道59号線の周辺
- iv) 栃木営業所 駐車場側町道東側から駐車場側町道西側まで
- v) 上武営業所 駐車場及び周辺
- vi) 三重営業所 営業所正面道路の左右
- vii) 福岡営業所 営業所から富士見産業まで
- viii) 茨城出張所 出張所から隣接企業／裏駐車場まで

清掃の様子



(本社)



(厚木営業所)



(多摩営業所)



(上武営業所)



(栃木営業所)



(三重営業所)



(福岡営業所)



(茨城出張所)

⑤グリーン購入・調達推進

環境負荷低減に貢献する商品の購入のうち、社内で使用する物品の購入を「グリーン購入」、得意先へ販売する商品の購入（仕入）を「グリーン調達」と区分し取組んでいます。

i) グリーン購入

グリーン購入では、事務用品を対象にしています。また、総務部では事務用品以外にも、什器・備品などの購入の際に配慮しています。

事務用品選定時の指標は以下のとおりです。

- ・環境物質等の調達の推進に関する基本方針
- ・GPN（グリーン購入ネットワーク）のエコ商品ネット
- ・各社が発行しているカタログ
- ・グリーン商品として登録されていないが、事務用品の長期使用に繋がる消耗品（ボールペン替え芯、修正テープカートリッジなど）

ii) グリーン調達

各種商品の購入先（仕入先）には、当社の取組みを纏めたグリーン調達ガイドラインにより、環境保全活動への協力を依頼しています。

協力依頼の内容は、製品の製造時や輸送時など、それぞれの場面で負荷物質の低減や省エネルギー、省資源の取組みです。

⑥法令順守の状況

2018年度の主な法令等の順守状況は次頁のとおりです。

名称（一部略称あり）	主な要求事項	遵守状況
高圧ガス保安法	販売業届出、販売主任者選任、周知の実施	○
液化石油ガス法	販売事業登録、保安業務の実施	○
毒物劇物取締法	販売業登録、取扱責任者選任、保管状況、譲渡書の保管	○
医薬品医療機器等法	卸売販売業許可、管理者選任	○
労働安全衛生法	安全責任者・衛生責任者選任、各種講習・特別教育の受講	○
廃掃法	特別管理産業廃棄物管理者の選任、マニフェスト管理、報告	○
フロン排出抑制法	届出、回収量の報告	○

★産業廃棄物処理状況の現地確認

産業廃棄物処理委託業者の現地確認を行いました。



処理の状況（1）



処理の状況（2）

⑦廃棄物の削減及び資源リサイクルの推進

i) 産業廃棄物排出量の推移

単位：t 又はm³

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
本社	4.54	16.54	24.0
厚木営業所	3.7	3.2	7
上武営業所	—	11	—
栃木営業所	4.44	—	18.0
福岡営業所	1.82	2.2	1.8
合計	14.5	32.94	50.80

*本社での産業廃棄物の主な種類は、廃プラスチック、木くず、ガラス、陶磁器くず等です。

ii) 金属リサイクルの取り組み

金属リサイクル業者への持ち込み量の推移

単位：Kg

本社では、産業廃棄物のうち各種金属類を構内で分別し、金属リサイクル業者へ持ち込みリサイクルに取り組んでいます。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
鉄	4,030	1,300	1,370
銅系非鉄	780	320	230
ステンレス類	1,030	360	270
アルミニウム	70	0	10
合計	5,910	1,980	1,880

iii) 紙類リサイクルの取り組み

古紙リサイクル業者への持ち込み量の推移

単位：Kg

本社では、不要な紙類も大量に発生するため、一時保管場所を設け、構内で分別して古紙リサイクル業者へ持ち込みリサイクルに取り組んでいます。

	2016 年度	2017 年度	2018 年度
ダンボール	1,710	1,250	1,470
新聞	350	530	290
雑誌類(*)	2,510	1,590	1,920
合計	4,570	3,370	3,680

iv) 再使用の取り組み

当社では、本社独自の取り組みで、物品の再利用、長期使用を目的として再使用という活動を行っています。

各部署で不要なものを社内ネットワーク上に登録し、他部署がそれを再利用（再使用）するというものです。実績をポイント制とし、各部署が数値目標にして活動しています。

再使用ポイントの推移

単位：ポイント（件数）

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
再使用ポイント	110	85	69

*再使用した物品の例：

梱包用ダンボール、配管材料、ボールペン、クリアホルダー

⑧物流関連のエネルギー使用の状況

エネルギー使用の合理化等に関する法律では、運輸部門に関して、年間3,000万トンキロとなる事業者（荷主）が、その対象です。

当社はその特定荷主に該当しませんが、実績の監視を継続しています。実績の集計のもととなる当社の運送形態は、以下のとおりです

- ・当社の配送車を使用した配送
- ・配送契約による当社専属の配送車による配送
- ・当社との契約による配送車（タンクローリー）での製造メーカーから直送

単位：千トンキロ

年度	輸送量
2016 年度	2,348
2017 年度	2,808
2018 年度	3,016

⑨教育関連

年2回実施する管理層を含めた定期教育のほか、外部講習へ積極的に参加しています。

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
人数（延べ）	11 名	23 名	21 名

※2018年度で参加した外部講習の例

内部監査員養成セミナー、ISO14001規格改正説明会、環境配慮法説明会など

⑩ 2018年度CO₂排出量

項目	エネルギー源 CO ₂ 排出係数	使用量	CO ₂ 排出量
電気使用量	0.491kg/kwh (※2)	201,411 kwh	98,892.801kg
LPGガス (※1)	6 kg/m ³ (※3)	684.7 m ³	4,108.2kg
ガソリン	2.331kg/L (※3)	119,593L	278,771.283kg
水道	0.54kg/m ³ (※4)	1,351 m ³	729.54kg
排 出 量 合 計			382,501.824kg

※1 自家使用のため概算

※2 電気事業者別排出係数 (H29. 12. 21環境省・経済産業省公表による)

※3 温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインVer. 1. 0による

※4 日本レストルーム工業会資料による

CO₂排出量の推移

単位：kg

年度	2016年度	2017年度	2018年度
CO ₂ 排出量	159,857	352,824	382,502

2017年度排出量の集計では、排出係数の見直しを実施した。

6. 投資

認証登録維持のための外部審査費用をはじめ、法令等の情報収集のための費用、その他一般的な環境情報入手する手段としての書籍の定期購読費用、各種備品や、業務で発生した廃油の処理費用などのために、予算が割り当てられています。

単位：円

番号	項目	2016年度	2017年度	2018年度
1	備品	20,545	11,285	0
2	設備工事	131,100	128,400	355,000
3	講習研修、審査登録等	1,306,047	880,851	606,578
4	法令等書籍	175,920	234,542	115,371
	合計	1,633,612	1,255,078	1,076,949

7. 重要な環境課題の特定

著しい環境側面

2019年1月に実施した環境側面の定期見直しで、特定された当社の著しい環境側面は以下のとおりです。

環境側面	部署	定常時／非定常時
コピー紙の使用	全部署	定常時
電気の使用	全部署	定常時
自動車燃料の使用	全部署	定常時
排気ガスの発生	全部署	定常時
環境に配慮した商品の購入	全部署	定常時
フロン回収作業の推進	営業部	定常時
環境に配慮した商品の提案	京浜事業部、営業部、新規開発部、総務部、営業所、出張所	定常時
車両からの粉塵の発生	エンジニアリング部、京浜事業部、新規開発部、総務部、営業所、出張所	定常時
環境に配慮した設計	エンジニアリング部、京浜事業部、新規開発部、営業所、出張所	定常時
可燃性ガス大量漏れの発生	エンジニアリング部、新規開発部、営業部、調達・物流部、京浜事業部、営業所	非定常時
毒性ガス大量漏れの発生	新規開発部、営業部、調達・物流部、厚木営業所、上武営業所、福岡営業所	非定常時
塩化水素大量漏れの発生	福岡営業所	非定常時



株式会社 渡商会

〒221-0021 横浜市神奈川区子安通 2-234

TEL 045-441-1330 FAX 045-441-1567

<http://www.watari.co.jp>